川口いきもの通信

Vol.22
2026.11

夜のいきもの観察会!!

今年も夜のいきもの観察会を開催しました。
夕暮れから夜にかけて活動する生きものたちの様子を観察することができました。ムシムシと暑い中で行われましたが、夏の夜の貴重な体験となりました！



岡村市長も一緒に
夜の園内を探検しました！





光に集まる生きものを
観察したよ!



終わりの会では見つけた生きものを発表し、隊長から色々なことを教えてもらいました。



バナナトラップに集まるカブトムシ

観察できた生きもの《イイナパーク川口》

ヒキガエル
ナツアカネ
キリギリス
ヤブキリ
ハラビロカマキリ
ニイニイゼミ
ツヤアオカメムシ
チャバネアオカメムシ
ウスバカゲロウ
コガネムシ
オオクロコガネ
コフキコガネ
ヒメコガネ
カナブン
カブトムシ
コクワガタ
ノコギリクワガタ
ミヤマカミキリ
アカアシオオアオカミキリ
クワカミキリ
ツマグロヒョウモン
ベニスズメ
キシタバ
など





セミの羽化を初めて見て感動した。

普段は入れない所で昆虫を観察出来て楽しかった。

隊長が詳しいことを沢山教えてくれた。

身近にある自然を感じられて良かった。

《参加者の声》

“博士と学ぶ！” 生きものたちの楽園「ビオトープ」



みんなは「ビオトープ」という言葉を聞いたことはあるかな？
ビオトープはドイツで生まれた言葉で、ギリシャ語の「命（bio）のある場所（topos）」が由来なんじゃ。人が造ったものか、自然にできたものかは関係なく、草地や湿地、池や沼、森林、街路樹など、生きものたちが暮らし、育つ場所のことを「ビオトープ」と呼ぶんじゃぞ。
川口市内の身近なところでは、学校やイイナパーク川口、川口自然公園などにある人工の水辺空間も、そのひとつなんじゃ。ビオトープがあると、トンボやゲンゴロウ、カエルやトカゲ、さらにはそれらを捕まえて食べる野鳥など、たくさんの生きものたちが集まってくるんじゃよ。
つまり、ビオトープは生きものたちにとって大切な「命のつながる場所」なんじゃな！

実際にビオトープを取材してきました♪　裏ページへ >>

川口市役所 自然保護対策課 TEL:048-229-6735

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

芝富士小学校の
＼ビオトープを取材してきたよ！／



校庭にあるビオトープは平成11年の卒業生が制作したもので、水辺にはヨシなどの水生植物が植えられ、水の中にはヤゴ（トンボの幼虫）などの様々な生きものが見られました。周辺ではジャコウアゲハやアオスジアゲハが飛び回り、木の葉っぱには沢山の幼虫が顔をのぞかせていました。周囲の樹木は鳥が飛んできてフンをして、その中に入っていた種から育ったものが多いと言います。自然に近い環境を再現することで生きものがいつの間にか棲みつき、住宅に囲まれた場所でも多くの生きものに出会えました！



カエルが池に入りやすいように花壇の周りにスロープを作っています。



↑使わなくなった花壇を利用した池



地面を掘って作った池 →



休み時間には、自由に昆虫や植物を観察できます。







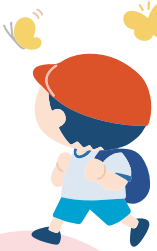


今回お話しを聞いた西尾先生ご夫妻です。

ビオトープ創設の中心となり、現在まで管理を続けています。

卒業制作の看板には、自然のしくみや大切さが書かれています。







週に１回特別支援学級の授業がビオトープで行われています。

“ビオトープを作るのって大変なの・・？”



お金がかかったり、広い場所が必要なイメージがあるかもしれませんがそんなことはありません。芝富士小学校には「虫げんき」というスペースがあります。これは手作りした木枠（底がない箱）に、学校内の落ち葉をいれたものです。こうすることで腐葉土ができ、多くの生きものが棲みつきます。捨てるはずだったただの落ち葉が生きものの居場所にかわるのです。上手くいけば、カブトムシが卵を産んでくれるそうです！



また、家で木や花を植えたり、容器や鉢を用意してメダカなどを育てるのもいいですね。ちょっとしたことからでも工夫次第でどんな場所でも生きもののすごせる場所を作ることができます。ぜひみなさんも挑戦してみてください！